

## 使用後について

使用済の消火器は、販売店に依頼し速やかに再充填するか新しい消火器を設置してください。絶対に分解しないでください。


## 消火器の回収・リサイクルについて

※回収、廃棄の際は専門業者又は販売店にお問い合わせしてください。  
※なお回収、廃棄処理には、費用がかかりますので有料処理となります。ご理解とご協力をお願いいたします。

発売元  マルヤマエクスセル株式会社

製造元  株式会社 丸山製作所

お問い合わせ先

(株)丸山製作所サポートセンター :  0120-898-114

本社 : 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-15

[東日本営業所] 東北グループ / 東京・千葉グループ / 名古屋グループ

[西日本営業所] 大阪グループ / 九州グループ

●この商品についてのお問い合わせ、ご相談は弊社販売店または、  
上記のサポートセンターへご連絡ください。

## 取扱説明書

# MARUYAMA 化学泡消火器

転倒式 大型車載式

国家検定合格品

該当器種 **FHA-100H**  
●ストップなし



写真は  
FHA-100Hです。

このたびは、マルヤマ消火器をお買い求めいただきまことにありがとうございました。ご設置、使用される前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しい設置、正しい使い方をしてください。なお、この取扱説明書は大切に保管してください。

## もくじ

各部のなまえ・構造図	1
適応火災	3
使用方法	4
必ずお守りください	
1.危険	5
2.警告	6
3.注意 設置上の注意	7
使用上の注意	8
使用後の注意	9
メモ	10
使用後について	11
回収・リサイクルについて	11

## 消火器は圧力容器です。取扱説明書をよく読んで正しくご使用ください。

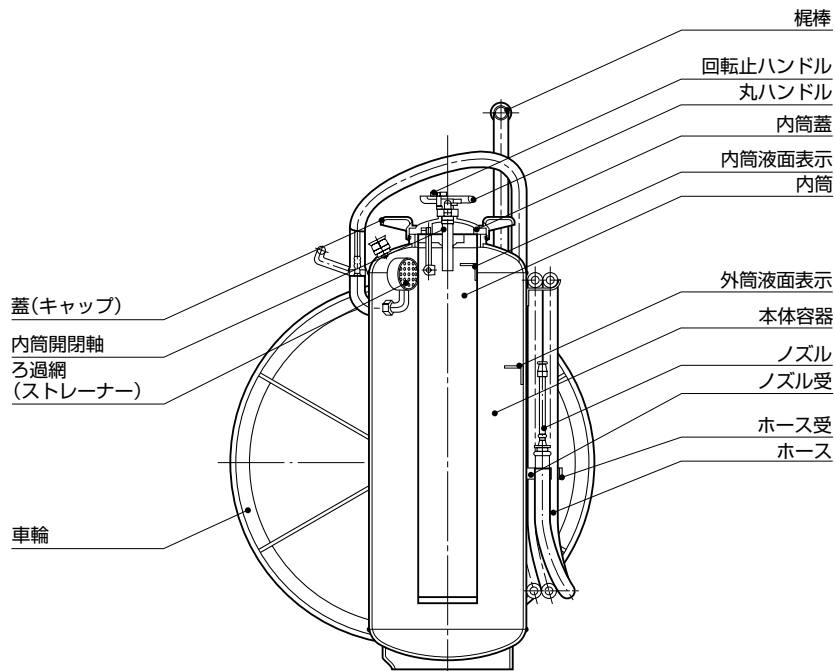
- 取扱説明書では、ご使用上の注意内容を無視し誤った使い方をしたときに生じる危害、損害の程度を「危険」「警告」「注意」で表示しています。

<b>危険</b>	取扱い上容器が破裂し重大な人身事故が発生し、「死亡または重傷などを負う切迫した危険状況を示す」内容です。
<b>警告</b>	設置上及び使用上「死亡または重傷などを負う潜在的な危険状況を示す」内容です。
<b>注意</b>	設置上及び使用上「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

- 消火器には適応火災と消火能力単位が表示されています。適応火災はその種の火災に適していることを意味し、消火能力単位は規格基準に基づく消火単位を表示しているもので、これをもって実火災における消火規模を限定することはできません。
- 消火器はあくまで初期消火に威力を発揮しますが、火災規模、状況等により、どんな火災でも消火できるとは限りません。そのため、正しい使用方法に基づいて消火器を使用したにも拘らず消火できなかったことによる人的、物的損害についての賠償の責はご容赦願います。
- 取扱説明書の注意事項に従い維持管理され、正しい使用方法にもかかわらず品質上の不具合により機能しなかった場合は、当該消火器を無料修理または無料にて新しい製品とお取り替えいたします。  
(但し、設計標準使用期限を過ぎた消火器の無償交換はご容赦願います。)

## 各部のなまえ・構造図

- この消火器は車輪が付いていますので移動して消火できます。



構造図はFHA-100H (ストップなしタイプ)

## 適応火災

この消火器は普通・油火災に適応します。消火器本体容器のラベルに表示しています。

消火器には、適応火災を示す色マークが付いています。この消火器は広範囲な場所に適応していますが、とくに危険物等火災の消火に威力を発揮します。



普通火災用



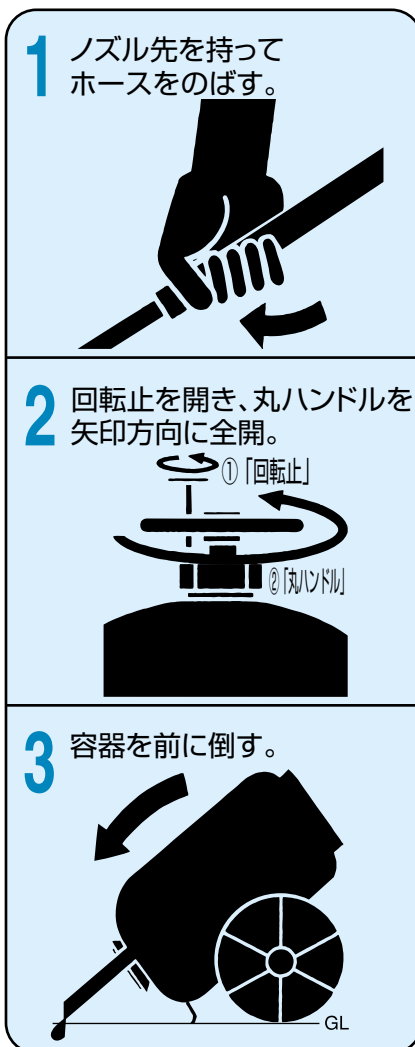
油火災用

★化学泡消火器は電気火災には適応していません。

## 使用方法

消火器本体容器のラベルに表示しています。

- ① 梶棒を手前に倒して移動する。
- ② 梶棒を起して消火器を垂直に立てる。
- ③ ノズルの先を持ってホースをホース受けからはずして伸す。
- ④ 回転止めを左へ廻してロックを解除する。
- ⑤ 丸ハンドルを左へ止まるまで廻して内筒蓋を全開する。
- ⑥ ノズルを火元に向ける。
- ⑦ 梶棒を持って手前に倒す。(胴体上部の突起が床面に着くまで倒す。)
- ⑧ 倒すと、ノズルの先から放射を始めますので、火元をおおうように放射する。



## 必ずお守りください

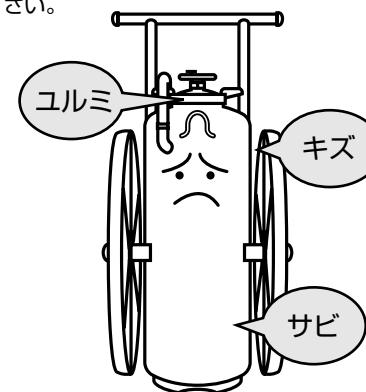


## 危険

消火器本体容器の破裂等により人身事故発生の恐れがあります。該当する消火器は絶対に使用しないでください。また、取扱いは十分ご注意ください。

1.サビ・傷・変形・キャップ及び部品のゆるみ、脱落のあるものは絶対に使用しないでください。

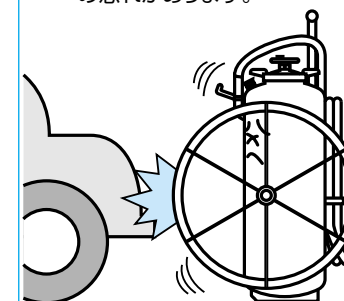
設計標準使用期限(10年)以内の消火器でも該当するものは、使用しないでください。



2.分解しないでください。

3.消火器は圧力容器です。消火器に強い衝撃を与えないでください。

本体容器の破裂等により人身事故発生の恐れがあります。



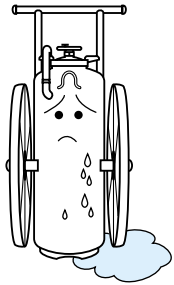
4.化学泡消火器は、電気設備の火災には絶対に使用しないでください。

感電及び機器損傷の恐れがあります。

※消火器を廃棄される場合は必ず専門業者又は販売店にご相談ください。

# 警告

1. 腐食しやすい場所、湿気の多い場所、潮風や風雨にさらされる場所に設置しないでください。
2. 濡れた床や地面に直接置かないでください。



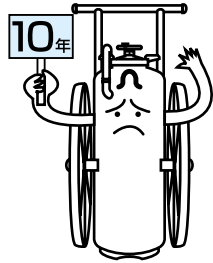
3. 使用温度範囲を超える場所に設置しないでください。
4. 絶対に人に向けて放射しないでください。

呼吸困難や危害発生を招く恐れがあります。



5. 火元から5m以上離れてから放射を開始してください。
6. 避難経路を確保しながら消火してください。

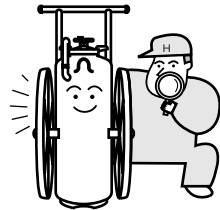
7. 設計上の標準使用期限（10年）を超えて使用すると、経年変化によりけがなどの事故になる恐れがあります。



8. 製造年から10年を過ぎたものは、法で定めた水圧検査を実施してください。

本体容器の破裂により人身事故発生の恐れがあります。

9. 6ヶ月ごとに法令で定められた点検を実施してください。



10. 消火器の清掃は、水洗いや有機溶剤（ガソリン、ベンジン、シンナー等）及び中性洗剤を使用しないでください。

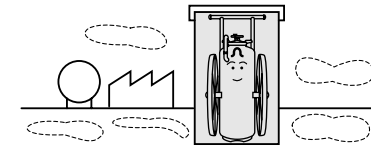
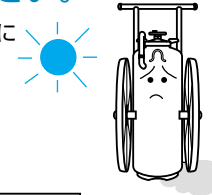
サビ、ホースの変質などの原因になります。乾いた布等による清掃をおすすめします。

# 注意

## 設置上の注意

1. 日光が当たる場所には設置しないでください。

必要に応じて格納箱に入れてください。



2. 通行または避難に支障がなく、スグに持ち出せる場所に設置してください。

3. 地震・ゆれ・振動で消火器が転倒・移動しないように設置してください。

4. 消火器に表示されている使用温度範囲内の場所に設置してください。

使用温度範囲外で使用すると、消火できない場合があります。+5℃以下の低温の場所では保温してください。

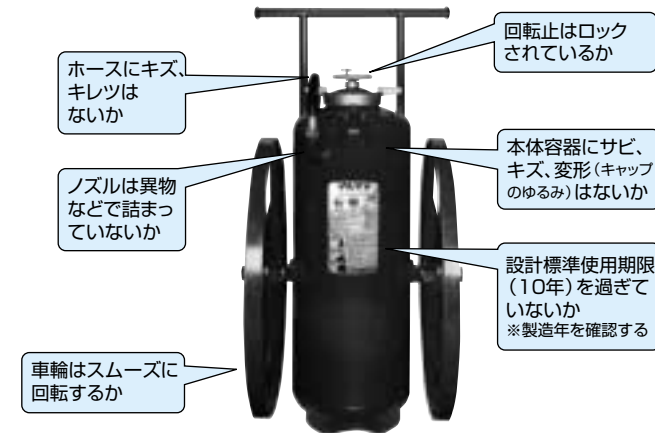
5. 消火薬剤は1年毎に、必ず新しいものと取り替えてください。

6. 柄棒を手前（ホースを向う側）にして設置してください。

7. この消火器は業務用消火器です。

8. 3カ月に一度外観を観察してください。

異常を発見した場合は、速やかに販売店に連絡し、整備等の処置をしてください。



## 使用上の注意

1. 適応火災は消火器本体のラベル表示と、この取扱説明書を確認してください。

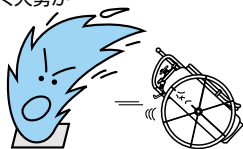
(燃焼物によっては適、不適があります。)

2. 消火器は初期消火をする器具です。消火範囲にも限度があります。

火災の大きさ、消火開始の時期、適応火災の条件により消火できない場合があります。

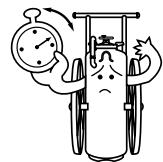
### ●火災の大きさ

炎が大きく火勢が強い時



### ●消火開始の時期

火災の発見が遅れ消火開始が遅れた時



### ●適応火災の条件

火災の種類により適、不適があります

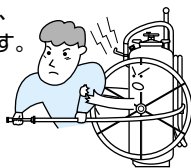


### 消火に際して

- ムリな消火活動はしないでください。火災拡大の恐れがあります。
- 消火に際しては、逃げ道を確保して消火してください。
- 屋外での消火は風上より消火してください。

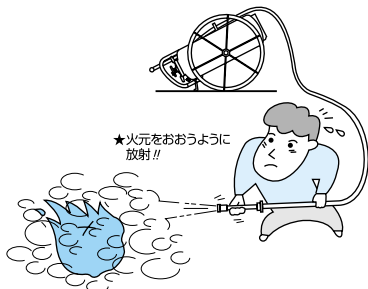
3. ためし消火はしないでください。

そのまま放置すると、使用できなくなります。



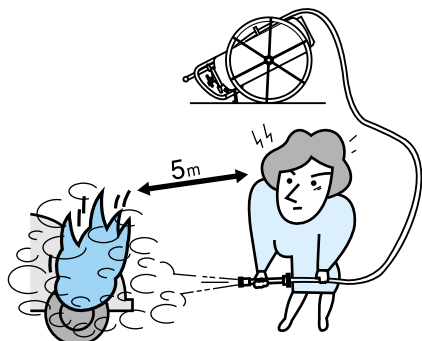
4. 正しい使用方法で消火してください。

消火器本体容器のラベルに表示している使用方法に従って消火してください。



5. 消火の際、火に近付き過ぎないようにしてください。

とくに油火災の場合、油の飛散や、炎の吹き返しにより火傷等の恐れがあります。

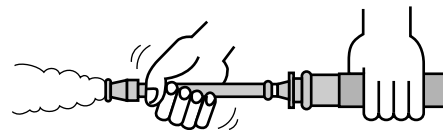


消火開始時には、5m程度の距離を保ち、炎がおさまるにつれて接近してください。

## 使用上の注意

6. ノズル先をしっかり握って消火してください。

ノズルを手放すと放射方向が定まらず消火ができなくなります。



9. 恐しい火災発生時のガス。

火災による発生ガスは人体に有害です。換気の悪い狭い場所での消火は注意してください。

10. ホース、ノズルにキレツのあるもの、ノズルが離脱しているものは使用しないでください。

7. 消火器を手前に倒すときは梶棒をもって倒してください。

乱暴に取り扱わないでください。

8. 化学泡消火薬剤は炎を被覆するように放射してください。

泡で炎をおおうように放射してください。



## 使用後の注意

1.ガスが関連した火災ではガスの元栓を必ず締めてください。



3.消火薬剤のかかった食物は食べないでください。



2.消火薬剤が身体にかかったり、目に入った場合。

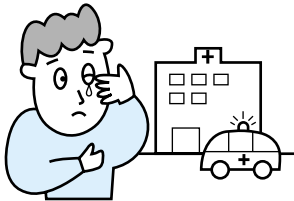
### ●身体にかかった場合

水洗い等をして十分洗浄してください。



### ●目に入った場合

速やかに水洗いし、医師の診察を受けてください。



4.消火薬剤が器物にかかった場合。

### ●器物は十分清掃してください

そのまま放置すると腐食等の変質をおこすことがあります。



5.消火薬剤の詰め替えは販売店に依頼し、当社製適合薬剤を再充填してください。

## MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---